



□テーマ：「住民にとって安全・安心な庁舎(+α(免震構造))」、「利用者にとって利便性の高い庁舎」、「効率的な行政運営を促進する庁舎(ランニングコストに関する提案を含む。)」、「住民参画・協働を促進する庁舎」、「町の活性化に資する庁舎」、「暮らしやすさを促進する庁舎」及び「開かれた議会とその活動を支える庁舎」それぞれの提案並びに全体事業期間の短縮に関する提案及び全体事業費(イニシャルコスト)の圧縮に関する提案

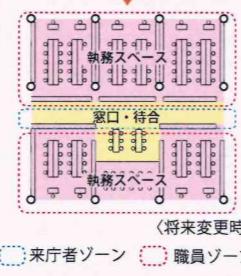
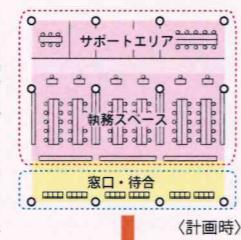


### テーマ 3：効率的な行政運営を促進する庁舎

#### □快適でフレキシブルな庁舎

##### ■自由度の高いフレキシブルな執務室(図5)

- ・フロアは整形でシンプルな計画とし、家具のレイアウトに配慮した柱の少ないロングスパンとすることで執務空間の自由度と将来的な業務の変化にも柔軟に対応できる計画とします。
- また、見通しの良さを重視したオープンな大空間とし、窓口エリア、執務スペース、サポートエリア(会議室、書庫、更衣室等)などに使い分けることにより、極めて自由度の高い「ユニアーサルフロア」とします。
- ・執務室には、会議室や打合せコーナー、更衣室など様々な目的に使える共用空間を集約して配置し、執務エリアを完全にサポートします。



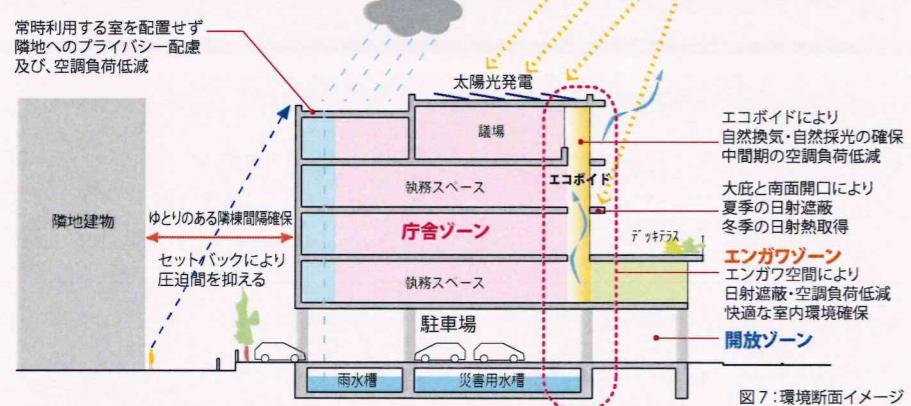
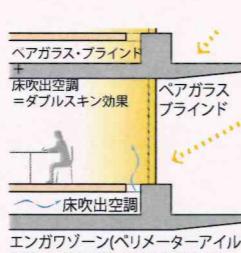
##### ■防犯・セキュリティに配慮した計画(図5)

- ・来庁者ゾーンと職員ゾーンの動線を明確に分け、情報管理と防犯性に配慮したゾーン構成とします。またセキュリティレベルの高い書庫等(サポートエリア)は北側へ配置します。

図 5 : フレキシブルな執務室

##### ■LCCの縮減(28%削減)に配慮した執務環境(図6,7)

- ・南面側に配置した待合スペースのエンガワゾーンは、通風や採光調整するバッファゾーン(ペリメーターアイル)として機能し、さらに各階を吹き抜けでつなぐことにより、エコボイドとして機能させ、重力換気を行います。また東西に長い風の通り道を設け、海田町特有の海風・山風を庁舎の内部に通すことで、中間期において冷暖房に頼らない効率的な執務環境を目指します。
- ・昼光運動制御、LED照明、人感センサー、明るさセンサー等により照明ランニングコストの削減を図ります。
- ・床吹出空調システムを採用し、間仕切りレイアウト変更時のダクト改修不要な計画とします。
- ・BEMSによりエネルギー消費データを分析し、エネルギー利用や設備運転のデマンド制御をすることで最適化を図ります。



### テーマ 4：住民参画・協同を促進する庁舎

#### □町民参加がまちを元気にする庁舎

##### ■閉庁時でも利用できるオープンな庁舎(図3,8)

- ・明快なセキュリティエリアを設定することで休日や夜間の閉庁時でも庁舎のセキュリティを保持しながら町民利用スペースやギャラリーなどを利用できる計画とします。また、ギャラリーは折戸をフルオープンにすることでふれあい広場と一緒に使われる計画とします。

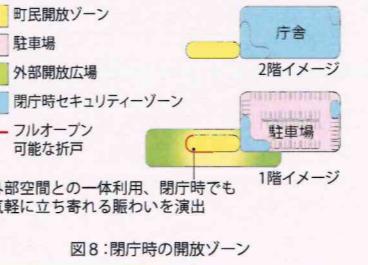


図 8 : 閉庁時の開放ゾーン

### テーマ 5：町の活性化に資する庁舎

#### □賑わいを生む庁舎

##### ■閉庁時の1階駐車場の有効利用(図8)

- ・1階駐車場は、閉庁時や雨天時でもマルシェやフリーマーケット、まつり等の多様なイベントが開催できる新しい公共の場となります。

##### ■まちのシンボルとなる街並みづくり(図1)

- ・計画地は、現在建設中の県道矢野海田線に接しております。そのため庁舎は、新たに誕生する道路に直線的に配置し、道路に沿って開いた構成とします。そうすることで町民の活動が街に表出し、賑わいのあるファサードと都市的な街並みを造り出します。
- ・来庁者の入口は駅からの歩行者を迎える西側や南側歩道、駐車場等どこからでも入りやすいように配置し、周辺地域の発展も見越した開放的で立ち寄りやすい計画とします。敷地への車両進入口と主な歩行者進入口は明確に分け交錯のない計画とします。

### テーマ 6：暮らしやすさを促進する庁舎

#### □人と人、まちと人をつなげる庁舎

##### ■町民の生活に身近な庁舎(図2)

- ・海田町は子育て世代や高齢者の住民構成比が高いことから、キッズコーナーや授乳室などを充実させ、また利用頻度の高い保健センターは2階に配置します。待合には情報コーナーも兼ねたミニ本棚をはじめ、親子や高齢者に配慮した温もりある家具に囲まれた空間づくりを心掛けます。

##### ■気軽に立ち寄れる公園のような庁舎(図3)

- ・敷地にはできる限りオープンスペースを確保し、西側道路から南側道路の相互から導かれるような空間づくりをして、多くの人が公園を散歩するように気軽に庁舎を訪れることができる計画とします。

### テーマ 7：開かれた議会とその活動を支える庁舎

#### □議会を透明化できる庁舎

##### ■議会が身近となる庁舎(図4)

- ・議場前には展望スペースを兼ねた傍聴ロビーを設け、町民が議会に親しみを持つ空間とし、会議中の状況をモニターに映すことで議会を身近にする計画とします。

##### ■議場の多目的利用(図4)

- ・議場の床をフラットにし、机や椅子は収納できる形式とし、傍聴席部分は、折りたたみ可能な移動観覧席を採用することで議会閉会中には集会や公演等の多目的なイベント利用ができる環境とします。

### 全体事業期間の短縮に関する提案

#### ■実施設計における工期短縮

- ・実施設計における手戻りを少なくするため、各諸室に必要なOA機器や家具等の備品は、基本計画・基本設計時に把握し、レイアウトも含めてプランを計画をします。
- ・フレキシブルな空間とし、均等スパンによる平面計画とすることで、無駄のない構造計画を優先させます。プランの変更や、構造の検討に柔軟に対応でき、実施設計の工期を短縮できるよう努めます。
- ・構造を耐震構造とすることで免震装置に係る検討業務を省略します。

#### ■工事における工期短縮

- ・設計時より、極力シンプルな構造計画とし、特殊な工法を極力用いないことで、施工が容易な形態として、躯体工事に係る工期を短縮できるように配慮します。
- ・耐震構造とすることで、免震装置の施工に伴う工程を省略します。
- ・躯体のPCa化を積極的に採用し、型枠・支保工を削減することで、工事の簡略化を図り、工期の短縮化に努めます。

### 全体事業費(イニシャルコスト)の圧縮に関する提案

#### ■構造計画によるコスト縮減(図9)

- ・柱のスパンはPC梁によりロングスパン化し、杭本数の削減を図り、杭工事及び基礎工事の工事費を抑えます。また、免震装置やクリアランスの大きなエキスパンションジョイントを用いない構造計画とすることで建設コストを縮減します。
- ・免震床を必要とする箇所を検討し、限定された箇所にピンポイントで使用することにより免震に係るコスト縮減を図りやすい計画とします。
- ・エレベーター・エスカレーター、及び階段、その他配管等の免震対応が不要な構造計画とすることで、工期及びコストの縮減に努めます。

#### ■設備計画によるコスト縮減

- ・パイプスペースを各階共通仕様とすることで、設備配管の長さを縮減し、イニシャルコストとランニングコストを縮減します。
- ・ダクトルートの無駄をなくし、階高を抑制することで躯体や内外装の面積縮減を図ります。また同時に建物高さを抑えることで周辺住宅へ圧迫感を抑制します。

#### ■基本設計段階でのコストコントロール

- ・基本設計段階では数度の概算を行い、コストコントロールを確実に実践します。初期段階よりコスト管理を行うことで、コストコントロールはもとより、コストのズレ、設計工程の手戻りを防止します。

#### ■建設物価上昇を踏まえたコスト分析・予測

- ・資材や労務費の変動による建設市況を分析し、実勢に沿った的確な建設コストを提示します。

#### ■選定仕様によるコストコントロール

- ・二次製品を活用することで現場での作業工程をなるべく少なくします。また工期の短縮という相乗効果を持たせます。耐久性の高い材料を採用することで、竣工後のメンテナンス性に配慮し、将来的なランニングコスト削減を計ります。

### 構造形式比較表(図9)

	一般的な耐震構造 (重要度係数1.5×地域係数0.9=1.35)	高性能耐震構造(※1) + 床免震	制震構造	免震構造
構造システム	耐震構造	高性能耐震構造 床免震	制震構造	免震構造
構造体の損傷 (震度6強)	○	○(無損傷)	○(無損傷)	○(無損傷)
防災機能	○	○	○	○
イニシャルコスト (%)	100%	102%	105%	115%
工期	○	○	○	△
維持管理費	○	○	△	△
総合評価	○	○	○	○
特記事項	※1: 本計画地で必要とされる耐震基準は、重要度係数1.5×地域係数0.9=必要重要度係数1.2ですが防災活動拠点としての機能を満たすため、1.5の確保を目指す高性能耐震構造を提案します。			